

ニュースルーム

味の素(株)、食とWell-beingの関係性のさらなるエビデンス構築に貢献

～OECDとの共同プロジェクトで孤独・孤立などの社会課題解決に食の果たす重要な役割を示唆～

2026.07.03 **プレスリリース**

コーポレート

味の素株式会社(社長:中村 茂雄 本社:東京都中央区)はこの度、OECDのWell-being専門組織であるSustainability and Opportunity(以下WISE)センターの新たな調査報告書「食を通じた社会的つながりの促進」^{※1}の発表に参画しました。この報通じた活動が人と人とのつながりを育み、孤独・孤立などの社会課題の解決に寄与し得ることが示されており、食とWell-being知見の深化に寄与しました。

※1) [Promoting Social Connectedness Through Food | OECD](#)

OECDでは近年、「社会的な繋がり」の欠如、孤立」を世界的な課題として位置付けており、2025年10月には孤独・孤立に関するなど、国際的にも関心が高まっています^{※2}。一方当社は、重要な事項(マテリアリティ)の一つに「食を通じたWell-beingの実現り良い暮らしへの貢献を目指しています。

※2 [Social Connections and Loneliness in OECD Countries | OECD](#)

当社はこれまでに米国の調査会社Gallup, Inc.と連携し、食とWell-beingに関するグローバル調査を経て2023年12月には「共食」と主観的Well-beingとの関係を示すレポート「Wellbeing Through Cooking」を発表しました。さらに、その調査データの結果が「World Happiness Report(世界幸福度報告書)」2025年度版に掲載されるなど、食が主観的Well-beingに加え、人を含む社会的Well-beingにも貢献しうることが確認されました。こうした背景を踏まえ、当社は2025年にOECDのWISEセンターを開始し、孤独・孤立と食との関係性をさらに明らかにすることを目的に、ケーススタディーの検証を行う形で調査報告書に参

OECD WISEセンター ディレクター、ロミーナ・ボアリーニ氏は次のように述べています。「この報告書によって食を基盤とするつながりの促進と、より広い意味でのウェルビーイングの向上にどのように寄与し得るかについて、エビデンスをさらに深めることがシステムの上でさまざまな段階に関わる活動が、地域の社会基盤の強化にどのように生かせるかも明らかになりました。今回取り上げ例は、コミュニティガーデンや料理グループ、地域の共食スペースなどが、日常のなかで人々の交流とつながりを生み出す場となっています。」

本報告書では、食を通じて社会的つながりを育む既存の取り組みの一例として当社の「アジパンダ食堂」の活動も紹介されてエビデンスをベースにOECD加盟国のケーススタディーが検証され、食を通じた取り組みが社会的つながりの強化にどのように寄与して、新たな知見が示されました。

味の素グループは今後も、調理や共食とWell-beingの関係性の解明を進めるとともに、その知見を事業や社会価値創出に生サイエンス®で人・社会・地球のWell-beingに貢献する」という志(パーパス)の実現を目指していきます。

参考

2023年12月1日付プレスリリース

味の素(株)、「調理の楽しさ」「共食」とWell-beingとの関係を示した調査レポートを発表

<https://news.ajinomoto.co.jp/2023/12/20231201.html>

2025年7月10日付プレスリリース

味の素(株)、OECDと共同でWell-being向上に向けたプロジェクトを発足

<https://news.ajinomoto.co.jp/2025/07/20250710.html>

2024年12月24日付ニュースレター

地域共食とフードロス削減に取り組む味の素グループの活動「アジパンダ食堂」

https://news.ajinomoto.co.jp/2025/09/2024_12_24.pdf

[ニュースルームTOPに戻る >](#)

[報道関係者お問い合わせ・プレスリリース配信希望はこちら](#)

[ウェブサイト利用規約](#) [プライバシーポリシー](#)

[外国にある第三者への提供について](#)

[ウェブアクセシビリティ](#)

[味の素グループ サイト一覧](#)



[一覧](#)

© AJINOMOTO CO., INC. All rights reserved.